

単元名

生きもの 大すき

教科書 上巻 p. 52～63 単元の配当時間 7時間／活動時期 9～ 10月

単元の目標

生き物と触れ合ったり世話をしたりする活動を通して、生き物の育つ場所、変化や成長のようすについて関心をもって働きかけ、生き物の育つ場所や特徴などに気付いたり、生き物が生命をもっていることに気付いたりするとともに、生き物への親しみをもち、生命あるものとして大切にすることができるようにする。

小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
見た ことがある 生きものは いるかな？ （1時間） 生き物と触れ合った経験や生き物を見つけた経験について話したり、聞いたりしながら、生き物への関心を高めることができるようにする。	思	これまでの経験を思い起こして、生き物が育つ場所を予想したり、見付けたい生き物を決めたりしている。	日常生活や幼児期の経験から、「バッタは草むらにいるよ」「ダンゴムシは石の下にいるよ」など、どのような生き物がどのような場所にいるかを考えて、進んで話したり、自分が探してみたい生き物について話したりしている。	●生き物がいそうな場所を教科書上巻p.52 ～ 55を参考に友達と話し合ったり、教師といっしょに考えたりしながら予想できるように支援する。 ●友達の発言を参考にして自分が探してみたい生き物について考えられるように助言する。
生きものと なかよくなろう （3時間） 生き物を探したり、触れ合ったりする活動を通して、生き物が育つ場所や生き物の特徴に着目して接したり、観察したりし、生き物のようすに気付くとともに、生き物の特徴に合わせた接し方で関わることができるようにする。	知	生き物の特徴や育つ場所に気付いたり、生き物の特徴に合わせた接し方をしたりしている。	生き物を探す活動を行う中で、どんな生き物がどんな場所にいるかがわかったり、見付けた生き物の特徴に気付いたりしているとともに、「バッタは草を食べるから草むらにいるんだね」や「バッタは高く跳ぶから、広い場所だと狭くなくていいね」など、それぞれの生き物に合ったえさや生育環境があることに気付いている。	●生き物を見付けられない場合は、生き物がいると予想していた場所を探すように助言したり、友達や教師といっしょに探すようにする。 ●生き物の特徴に合わせた接し方をしていない場合は、生き物の立場に立って接し方を考えられるように助言したり、生き物を見付けた場所を思い出しながら世話のしかたを考えられるように助言したりする。
	思	生き物の特徴や育つ場所に着目して観察したり、記録カードにかいたり、友達と伝え合ったりしている。	「ダンゴムシは石の下が好きだから虫かごの中に石があるといいと思う」「バッタが口を動かして草を食べていたよ」など、生き物がすんでいる環境や生き物の動きの特徴、えさなどを見付けて、自分がわかったことや考えたことを記録カードにかいたり、友達と教え合ったりしている。	●生き物を見付けた場所はどんな場所だったかを確認しながら、生き物のすんでいる環境の特徴について考えられるようにする。 ●教科書上巻p.122 ～ 123 を参考にしながら、生き物の育つ場所や特徴に着目して記録カードにかけるように支援する。 ●生き物のようすを観察しながら話し合う場を設定し、生き物の特徴について友達と教え合いながら気付けるようにする。
	態	生き物の特徴や育つ場所に合わせて生き物に接しようとしたり、生き物に親しみや愛着をもち、生命あるものとして関わろうとしたりしている。	飼育環境を生き物がすんでいた環境に近づけたり、「ウサギが近づいてくるときは抱いてもいいけれど、小屋の中で寝ているときはそっとしておいたほうがいいね」など、生き物の状況に合わせて接したりして、生き物を大切に扱おうとしている。	●生き物がすんでいた場所と飼育環境を比べたり、生き物の動きなどの特徴から適切な接し方を考えたりできるように助言する。 ●生き物のようすを見ながら触ったり、抱いたりするように助言する。

単元の評価規準

●知識・技能

生き物と触れ合ったり世話をしたりする活動を通して、生き物の育つ場所や特徴などに気付いたり、生き物が生命をもっていることに気付いたりしている。

●思考・判断・表現

生き物と触れ合ったり世話をしたりする活動を通して、生き物の育つ場所、変化や成長のようすについて関心をもって働きかけている。

●主体的に学習に取り組む態度

生き物と触れ合ったり世話をしたりする活動を通して、生き物に親しみをもち、生命あるものとして大切にしようとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
～やってみよう～ もっと生きものと なかよくなろう（配当外） 継続的に飼育活動を行いながら生き物と 直接触れ合ったり、飼育環境を整えたり することを通して、生き物の特徴に気付 いたり、生き物の特徴に合わせた接し方 をしたりするとともに、生き物の立場に 立って関わり方を工夫したり、心を寄せ て世話をしたりすることができるよう にする。	知	生き物の特徴に気付いたり、生き物の特徴に合わせた接し方をし たりしている。	生き物に繰り返し関わりながら直接触れ合ったり、飼育環 境を整えたりすることを通して、「前よりも大きくなって きたね」「今日はたくさん動いていて元気そうだな」な ど、繰り返し関わらないとわからない生き物の変化や成長 のようすに気付いている。	●教科書上巻p.120 ～ 121 を参考にしながら生き物の特徴 について気付けるように支援する。 ●飼育活動を行う中で生き物の変化などに着目できるよう に助言する。
	思	生き物の立場に立って関わり方を工夫したり、世話のしかたを工 夫したりしている。	飼育環境が生き物に合った環境になっているかを意識しな がら、「ふんをしていたら掃除してきれいにしよう」「え さがなくなっていたら準備しよう」など、状況に応じて世 話のしかたを工夫している。	●図鑑やインターネットなどで生き物に合った飼育方法を 調べたり、飼育委員会の上級生に飼育方法を教えてもらっ たり、教科書上巻p.59 のQR コードの生き物の育て方や獣 医師からのメッセージを参考にしたりして、世話のしかた を考えられるように支援する。
	態	生き物の特徴や育つ場所に興味・関心をもって、生き物に心を寄 せながら世話をしようとしている。	生き物の変化や成長のようす、飼育環境に関心をもって働 きかけ、「モルちゃんが心地よすみかにしたいな」「優 しく触ったり、抱いたりすることが大事だよ」など、生き 物を大切に世話をしようとしている。	●１人で世話をすることが難しい場合は、友達や教師と いっしょに世話をを行い、世話のしかたに慣れるように支援 する。 ●生き物に繰り返し関わる機会を日常的に設定し、生き物 に心を寄せる機会を多くするように支援する。
なかよくなれた ことを しょうかいしよう（3時間） 生き物との関わりを振り返り表現する活 動を通して、生き物が生命をもっている ことに気付くとともに、親しみや愛着を もって、今後も生き物と進んで関わろう とすることができるようにする。	知	生き物が生命をもっていることに気付いている。	「生き物もえさを食べたり、体があたたかかったりしてい るね。自分たちと同じように生きているんだね」など、生 き物は生命をもっていることに気付くとともに、「えさを 上手にあげたり、優しく抱いたりできるようになったよ」 など、生き物への親しみが増し、上手に世話ができるよ うになった自分の成長に気付いている。	●記録カードや撮影した写真、動画を手がかりに、生き物 の変化や成長に着目してこれまでの活動を振り返られるよ う助言する。 ●生き物の命に気付いている子どもの話をまわりに広げ、 生き物の命の大切さについて考えられるように促す。
	思	生き物を探したり、触れ合ったりしたことを振り返り、自分なり の方法で表現している。	生き物と関わる中で気付いた生き物の特徴について、「動 いているようすをみんなに知ってほしいから体を使って紹 介しよう」「えさを食べているようすをみんなにも見ても らいたいから動画で紹介しよう」など、相手に自分の伝え たいことが伝わる表現方法を選んで、準備をしたり、伝え たりしている。	●活動のようすを写真や動画などで見返したり、記録カー ドを見返したりして、自分の伝えたいことを決められるよ うに支援する。 ●表現方法については、教科書上巻p.60 ～ 61 や同p.124 を参考にして考えられるように支援する。
	態	生き物に親しみや愛着をもったり、生き物と上手に接することが できるようになったことに自信をもったりしたことを実感し、今 後の生活においても生き物と関わろうとしている。	生き物と繰り返し関わることで「上手にお世話をすること ができるようになったよ」など、自分の関わり方が上達し たことに自信をもって、今後の生活においても積極的に生 き物と関わろうとしている。	●生き物と関わる活動を始めたころの自分の関わり方と繰 り返し関わってきた自分の関わり方を比べて、自分の関わ り方が上達していることに気付けるように支援する。 ●今後の生き物との関わり方について、学習での経験を生 かして考えられるように助言する。